

平成16年度国立大学図書館協会賞審査結果報告

【受賞作品】

1 件名

九州大学附属図書館ラテン語古刊本書誌作成研修会の活動

2 応募区分

図書館活動における功績

3 応募者

九州大学附属図書館ラテン語古刊本書誌作成研修会

4 選定理由

本件は、教官の協力のもとに、平成3年度に開始され一時中断はあるものの平成15年度現在も継続されている図書館職員による自主的な研修活動である。

研修内容は、ラテン語入門の語学研修を振り出しとして次第に発展し、現在では、資料についての歴史的考察や書物史など書誌学的なアプローチを含み、それらを書誌作成に反映させる極めて高度なものとなっている。

また、研修会の活動は、単なる知識の修得に止まらず、遡及入力やインキュナブラを含む目録作成業務、あるいは各種展示会の開催等、図書館業務と密接かつ相互に関わりながら実施されており、その成果は、業務の改善にも繋がっている。

さらに、「資料保存研修会」の発足に影響を及ぼすなど、大学図書館における研修会活動の拡大・活性化の波及効果をもたらしている。

研修会の直接的・具体的な成果として、図書館職員のためのテキストにもなる冊子『タイトルページを読む楽しみ』を発行している。

九州大学の応募作品について具体的には下記の点から、「選考基準」第4条第1項第4号に該当するものとして、協議会賞に相応しいと思慮する。

記

- (1)日本や東洋の古文書・漢籍・国書などの書誌作成研修は、これまでかなりの大学図書館において行われており目録等も刊行されているが、西洋古典籍で

あるラテン語古刊本に関する図書館職員の自主的研修は稀少であり、本研修会の活動は先行的・独創的意義を持つものである。

- (2)書誌作成研修だけに止まらず、遡及入力等の実務においてもその成果を活かすとともに、資料展示及び資料保存の取り組み等へも拡がり、図書館活動全般への展開が見られることは非常に評価できる。
- (3)研修会活動の成果として、ラテン語古刊本の目録作成の有効なツールとなるとともに、図書館職員のためのテキストにもなる『タイトルページを読む楽しみ』を発行し、大学図書館で共有できるようにしたことは、大きな意義がある。
- (4)研究者との協力・連携による研修会活動を通じ、図書館職員の専門性の向上に寄与するとともに、図書館職員に対する学内及び地域における社会的な認識の向上にも貢献しており、高く評価できる。
- (5)本研修会は、わが国の大学図書館にとって重要な課題であるサブジェクトライブラリアンの育成に繋がる先行的かつモデルとなる活動であり、大学図書館活動において極めて顕著な意義を持つと評価できる。